

学校の周りの知らなかった音楽

— 伝統芸術との出会いを通じて —

1. はじめに

私たちは、1年生の時に和楽器に触れました。しかし、伝統芸術が身近な存在であるとは感じられませんでした。そこで、高津高校の周りにどのような伝統芸術が存在しているか調べる事にしました。

2. 研究方法

- 1、高津高校から半径 2km 以内に存在する伝統芸術の発見
山本能楽堂、大槻能楽堂、国立文楽劇場、新歌舞伎座の存在。
- 2、山本能楽堂の見学・・・舞台下の構造見学や、舞台裏の揚幕の体験。
現在の能楽堂に到るまでの変遷を知った。



左の写真は、能舞台の能役者が出入りする揚幕を実際に触らせていただいているところです。

右の写真は、能舞台に関する様々なことを能役者の方に教えていただいているところです。

- 3、大槻能楽堂での体験と鑑賞。謡の体験。

伝統的演奏法を体験。『土蜘蛛』鑑賞。

- 4、国立文楽劇場での体験と鑑賞

文楽人形や、舞台下駄、三味線の体験。



左の写真は、実際の太棹三味線で私たちが普段目にしてしている三味線と比べると、大型で音も低いです。

右の写真は、文楽人形を持っているところです。

5、『仮名手本忠臣蔵』の鑑賞。

- ・それぞれの体験前に調べ、私たちの疑問や解からない事を持って望んだ。
- ・体験後にさらに深く調べ、比較や考察を行なった。

3. 研究結果と考察

能は照明、建物の変遷は少しあるものの、室町時代からほとんど変えずに今に伝え続けている事に驚き、感心した。文楽は、世界でも珍しい人形浄瑠璃として、今まで伝わっている。これも、江戸時代からの伝統を守り続けている素晴らしい芸術である。

しかしそのことが、私たちからは、遠い存在になっている一因でもある。現代に合ったテンポ感、リズム、そして何より、解かりやすい言葉を取り入れ、昔の人がわくわくして鑑賞したように、私達にとって身近な題材で新たに作る能や文楽があっても面白いと思った。また、文楽は上方の言葉、発音にマッチした音楽旋律があり、また、三味線の深い情景描写などがある。謡も人生を積んだひとには理解できる、深みのある歌い方がある。

今後さらに歌舞伎についても調べ、その人気の秘密や工夫を探り、能や、文楽に取り入れ、工夫していく事が、さらにこの伝統が続き、さらなる発展と継承につながると考える。